47 社会科教諭と学校司書との連携による平和学習実践事例報告

沖縄県 沖縄県立辺土名高等学校

基本データ

所在地	国頭郡大宜味村饒波 2015 番地
児童生徒数	113 人
教職員数	30 人
蔵書数	15,572 冊
年間貸出冊数	1,285 冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】授業改善、教員による利活用の推進

【活動のねらい】

- 本県公立小・中学、高校の学校現場では「6.23 慰霊の日」に前後し毎年「平和教育」が各学校にて実施されている。しかし、戦後 74 年を経た現在、これまでの平和教育は深刻な課題（例えばマンネリ化等）に直面している。このような状況のもとで、これまでの平和教育への取組み方を見直し、「学習者の心に落とし込める平和教育」ができないかとのねらいのもと、その方法を試みた。情報探求および情報発信の場所としての図書館の特性を活かしつつ、教科横断的な可能性をも模索した平和についての学習である。

取組・活動の概要

（1）高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦フィールドワーク

- 名護市教育委員会主催。毎年 6 月頃開催。北部地区の 80 名の高校生を募集して開催。
- 学習内容を平和資料展とリンクさせることとし、学校司書と連携をとって、図書委員を中心とした生徒がフィールドワークへ参加、フィールドワーク内容をもとに平和資料展での展示・発表を行った。

（2）慰霊の日統一 LHR　沖縄戦 DVD 学習会

- 全学年対象で、毎年 6 月上旬に実施。
- DVD を教材（40 分程度）とし、上映後に司会（社会科教諭）より補足説明・解説を行った。生徒に配布したワークシートの質問（本時の内容確認）で振り返りを行い、最後に感想を書かせた。感想は、平和資料展に掲示し全生徒に共有した。

ワークシートを見ながら意見交換

（3）図書委員会主催による平和資料展

- 学校司書と社会科との連携を通して「主権者教育」を柱とした展示展を開催。沖縄戦に関するパネル、実際に戦争で使用された手榴弾、新聞記事、高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦：フィールドワーク報告、慰霊の日統一 LHR「6.23 平和学習」の内容を約 2 週間にわたり展示。図書委員が中心となって、展示の内容やレイアウトなどを企画・運営した。
- 社会科の平和教育関連授業を図書館にて行い、展示物を教材として利用。授業日程の調整とワークシート及び展示物の図書委員への掲示指示は学校司書が担当し、主権者教育に沿った内容のパワーポイント作成は社会科教諭が担当した。

名護市博物館から借用した戦争で使用された手榴弾

- 社会科の平和教育関連授業の前半は、本時の授業目的や戦争につながる社会の雰囲気環境や法整備、法律と憲法の違い（憲法の役割）について説明、７分半の DVD アニメーション「戦争のつくりかた」（©戦争のつくりかたアニメーションプロジェクト 2015）を視聴。
- 後半部分では、４グループに分かれて展示コーナーを順番で見学し、ワークシートに答えながら、各自の感想を記入した後グループ内で発表させた。グループとしての意見をまとめたあと、全体で意見を共有するため、グループ毎に感想・意見を発表する内容。

時間	授業内容	留意点	備考
5分	この時間の目的・流れを説明する	ワークシート 配布	出席確認は、提出されたプリントで行う
10分	DVDアニメーション「戦争のつくりかた」視聴 沖縄戦・日本国憲法について簡単に説明する		
20分 5×4	4グループに分かれて展示4カ所を各5分間で見学し、ワークシートに記入する ①沖縄戦のクイズ・写真パネル・遺品(手留弾) 展示 ②第25回高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦 フィールドワークに参加した生徒による報告 ③沖縄戦や憲法・基地問題等に関連する書籍の紹介 ④日本国憲法とそれに関連するクイズや展示 ⑤慰霊の日統一ＬＨＲ「6・23平和学習～沖縄戦のＤＶＤ鑑賞～」感想の紹介展示	☆5分毎に見学場所を交換を合図する ※見学しながらワークシートへの記入を促す	☆4つのグループ分けを指示する 展示番号☆1、☆2、☆3、☆4の順にまわる
5分	ワークシートの感想を解答する		
5分	意見や感想を述べあう	記入用紙 回収	

平和資料展と連携した、社会科授業の流れ

取組・活動の工夫や特徴

- 学校司書と社会科教諭が連携しそれぞれの活動を関連付け、学習内容にも工夫を加え、同時に図書委員等の生徒を巻き込む工夫をした。
- フィールドワークに参加した生徒からは、「これまでも「参加」はしていたが、アウトプットする機会がなかった。今回は「発表する責任」を設定することで、主体的なフィールドワークへの参加ができた。」という報告を得た。
- 平和資料展での発表はテーマに沿ったプレゼンだが、「戦争がおこる因果関係」にスポットを当てて主権者教育へとつなげたことで、自分事として内容をとらえていた。
- 総合学習における校外学習時の移動中の時間を任せたり（沖縄戦関連クイズの出題）、放課後における平和資料展の企画（レイアウト等）・展示作業、フィールドワークの発表準備など、活躍できる「場」を設定したことで学習者の問題意識が変化したと考えられる。

取組・活動の成果や今後の展望

- 生徒の学びに「主体的・対話的」効果がみえる。
- 感想文などからは、「自分たちが平和のために何ができるのか」等のこれからの話（未来を構築する内容）に関する記述が多く見られた。「平和」「人権」という命題を自分事としてとらえてくれていると考える。
- 今後の課題として、平和資料展の見学時間をもう少し増やすこと。１学期に集中している「平和学習」を年間を通した企画にすること。ワークショップ型の学びを図書館利用の指導計画へ位置づけること。実践者（教諭）育成。内容（多面的・多角的）も含め教科横断的な平和教育の模索。